

第1回レフェリーアカデミー報告書

福岡県ハンドボール協会所属 荒木隆史

・はじめに

2019年度第1回レフェリーアカデミーが広島経済大学体育館を舞台に行われた。大会内容は、中四国学生春季ハンドボールリーグ戦であった。

第1回レフェリーアカデミーのテーマは、「レフェリーとしての立ち振る舞い（正しいジェスチャー）を身に付ける。」であり、また今年度のレフェリーアカデミーの目標として新たに「審判員の心得10箇条」が追加された。

これより第1回レフェリーアカデミーでの講義内容の報告と、私が第1回レフェリーアカデミーで担当した試合を通して感じた、「審判員の心得10箇条」の意義について以下に述べようと思う。

・第1回レフェリーアカデミーでの講義内容

前述したように第1回レフェリーアカデミーの主なテーマは、レフェリーとしての立ち振る舞い（正しいジェスチャー）を身に付けることであった。

このレフェリーとしての立ち振る舞いとは、競技規則通りのジェスチャーを行うことが出来ることはさることながら、プレーがよく見える位置に先回りが出来ている事や、きちんとした走り方が出来ている事など多くの要素が含まれている。その中でも、周囲からの見やすさ、分かりやすさを重視したジェスチャーを意識する、という事が今回のレフェリーアカデミーで特に重視された。

レフェリーという存在は常に周囲から見られており、特に笛を吹いたときはレフェリーに視線が集まる。そんな時に、見やすく・分かりやすいジェスチャーを行えているかという事が非常に重要になってくる。私は、第1回レフェリーアカデミーを受講する前に鏡の前などで、競技規則のジェスチャーを確認しながらジェスチャーの練習をし、ジェスチャーを完璧にして大会に臨んだが、ジェスチャー13（警告・失格・報告書を伴う失格）とジェスチャー14（退場）を行うにあたって、講師の方から新たに指摘して頂いた事があった。

まずジェスチャー13についてだが、ジェスチャー13はカードを上げる位置を指摘して頂いた。下図を参考にして頂きたいが、ジェスチャー13を行う際は、カードを真っ直ぐ頭の上に上げるのではなく、自分が何色のカードを出したのかを確認出来るよう、頭より少し前の位置、カードが自分の視野に入ってくる位置に上げるという事であった。



×



○

ジェスチャー14については、「2」を示す手の形を指摘して頂いた。以下の写真のように、いわゆるジャンケンのチョキのようにするのではなく、2本の指を交差させるようにするという事であった。こうすることによって、どの角度から見ても「2」と確認することが出来るのである。



×



○

このように、指先から足先までの細かい部分まで意識することによって、より見やすく・分かりやすいジェスチャーを行えるということを学ぶことが出来た。これからも競技規則通りのジェスチャーを行えることはさることながら、細かい部分にまでこだわって、より美しいジェスチャーを心掛けるようにしようと思う。

またレフェリーとしての立ち振る舞いという点で、私は走り方についても指摘して頂いた。これまで、自分を客観的に見た走り方を意識していなかったが、私の走り方は腿が上がっておらず、腕がしっかりと振れていないとのことであった。また、立ち姿勢が基本的に蟹股であるため、あまり見栄えが良くないとのことであった。前述したように、レフェリーは常に周囲から見られている存在である。そのため、走り方や立ち姿勢も意識するようにしなければならない。走り方の改善については、ラダートレーニングを腿と腕を意識して行うよう課題を課して頂き、また立ち姿勢については日常生活で意識することで改善が可能であるため、常に美しい立ち姿勢を意識するようにしなければならない。

今後は、今回学んだレフェリーとしての立ち振る舞いを前提として、スムーズにスローの

ポイントまで行くこと、メリハリのある吹笛が出来る事などの技術も求められてくるので、これからも地元の大会などに積極的に出向き、多くの試合経験を積んで精進していかなければならない。

・「審判員の心得10箇条」の意義について

前述したように、今年度のレフェリーアカデミーの目標として新たに「審判員の心得10箇条」が追加された。この10箇条は、ハンドボールのレフェリーを行う上で大切にしていかなければならない内容である。

これより、私が今回のレフェリーアカデミーで担当した試合を通して感じた「審判員の心得10箇条」の意義について以下に述べようと思う。

①リーダーシップ (Leadership)

レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。今回私が担当した試合では、タイマーが正常に作動しないといったトラブルが良く起こった。試合前にタイマーが正常に作動するかのチェックをオフィシャルと行っていたが、チェックの詰めが甘かったせいか、いざ試合に入るとタイマーが正常に作動しておらず、試合を止めてしまう事が多々あった。ゲームを「管理・運営」していく上で、タイマーが正常に動くか、2分間退場の選手が出た場合どのようにタイマーを操作するのか、といったことを事前にオフィシャルと入念に確認しなければならなかった。

したがって、この「リーダーシップ」は試合前から発揮しなければならない内容であると感じた。

②誠実さ (Honesty)

レフェリーは誠実でなければならない。この誠実さという点は、私が10箇条の中で特に重要視している内容である。

今回私が担当した試合では、なぜその判定をしたのかを聞きに来る選手が多くいた。そんな時こそ誠実な対応が求められるのではないかと私は感じた。選手からの質問に対して、丁寧に答えることで選手は納得し、良い雰囲気の中で試合を展開することが出来たが、その場しのぎの答え方をすると選手は不満を感じ、ゲームが荒れてしまうという事があった。

間違った判定をしてしまったと感じたときはしっかりと謝るといったような、誠実さがゲームを管理・運営していく上で必要であると感じた。

③ルールに関する知識 (Knowledge of the Rule)

ハンドボールのレフェリーを行う上で、ルールは熟知しておく必要がある。それは、今回の大会でも何度か起こったが、試合中予期せぬことが頻繁に起こり得るからである。そんな

時に冷静に対応するためにも、ルールは熟知しておかなければならないと感じた。

④冷静さ (Firmness)

レフェリーは瞬間、瞬間に冷静で、適切な判断をする必要がある。今回の大会で、試合の大事な局面でインカムが途絶えてしまうといったアクシデントが起こった。そのアクシデントが起こってから私は冷静さを欠いてしまい、試合に集中できず適切な判断をすることが出来なかった。

試合中に予期せぬ出来事が起こることは頻繁にある。そんな時こそ、この冷静さが大事なのではないかと感じた。

⑤正しい判断 (Good Judgement)

レフェリーはプレーをよく観察し、はっきり確認したものだけを判定しなければならない。今回の大会での反省点として、アドバンテージを見過ぎていたという点が挙げられる。

ハンドボールにはアドバンテージルールがあるので、プレーが発展するかどうかを見極める必要がある。アドバンテージを見るのは良いが、発展性がないプレーに関しては、早めに笛を吹く必要があった。

⑥身体上の適正 (Good Fitness)

素晴らしい笛 (タイミング、判定基準) は、良い位置に素早く移動して、適切に判定することから生まれる。カテゴリーが上がるにつれて試合の展開は速くなる。その速い展開において、良い位置に素早く移動して、適切に判定するためには、レフェリーも選手と同等に走れるよう日々トレーニングしなければならない。

⑦ユーモアのセンス (Sense of Humor)

私の今の段階では、選手に対して微笑を持って接するといったようなユーモアのある吹笛をすることはまだ到底できないことかもしれないが、選手とともに試合を作り出すためには、これから自分なりのユーモアさを探していかなければならない。

⑧勇気 (Courage)

レフェリーは勇気を持って公平、的確に判定しなければならない。今回の大会で私は講師の方に、意図してはいないが無意識的に強い方のチームが有利になるような吹笛をしている、との御指摘を頂いた。

これまで自分が吹笛してきた試合の動画を見返し、分析してみると確かにそのように見える場面がいくつかあった。どのような試合展開であろうともルールはルールであるので、不正をした選手に対しては勇気を持って罰さなければならず、不正をした選手が有利になるようなことが無いようにしなければならない。

⑨協調性 (Cooperation)

競技場にはレフェリーは2人しかいないため、2人で協調しながらゲームを運営していかなければならない。そのため、試合中お互いを励まし合う事が大切である。

今回の大会では先輩のレフェリーとペアを組ませて頂く機会が多くあったが、その先輩方は皆、試合中「ナイスジャッジ」など励ましの言葉を私にかけて下さり、私をリードして下さいました。

このように、2人で力を合わせてゲームを運営していくという事を忘れないようにしなければなりません。

⑩仲間意識 (Fellowship)

協調性とほぼ同義であるが、ペアレフェリーだけではなく、チーム・オフィシャル・モップなどハンドボールの試合を支える様々な方々の存在に気付かなければならない。そして試合が終わった後は、これらの方々と健闘をたたえ合う事を忘れないようにしなければなりません。

・最後に

これまで第1回レフェリーアカデミーでの講義内容の報告と、「審判員の心得10箇条」の意義について述べてきたが、レフェリーアカデミーで学んだ内容を、これから地元の大会で活かしていくようにしなければなりません。

レフェリーアカデミーの活動内で必ず言われていることだが、アカデミー生は地元のハンドボール協会に貢献することを第一に考えるようにしなければなりません。

今回学んだ内容を地元の大会でも発揮し、行く行くは日本ハンドボール協会の第一線で活躍することが出来るよう、これからも精進していかなければなりません。